



注目!

いま話題の感染症

★小児急性肝炎

小児急性肝炎に関する情報提供です。既にメディア等でも取り上げられていますが、発端は2022年4月15日のWHOより、小児の急性重症肝炎患者数が増加していると報告されたことです。特徴的な臨床像は、①**黄疸と著明な肝トランスアミナーゼの上昇**(AST、ALTが共に500を超える)、②複数の症例で肝移植を必要としたとの報告があるが、多くは自然回復している、とされています。2022年5月26日現在で英国197例、米国216例、日本31例を含んだ少なくとも614例の症例が全世界から報告されています。英国では多くの症例からアデノウイルス(特にアデノウイルス41型)が検出されていると報告されていますが、まだこの疾患との関連は明らかとはなっておらず、薬剤(アセトアミノフェン、抗真菌薬等)等の感染症以外との関わりも含めて原因究明のための調査が行われています。今の所報告のあった各国では、症例が急激に増加している兆候はみられておらず、患者の周囲に容易に感染伝播して患者数が急増するような状況ではないと考えられています。

当院は**疑似症定点医療機関**の選定されています！

記暫定症例定義に該当する症例を認めた場合は、感染症法 14 条における疑似症として、**直ちに**最寄りの保健所へ届出が必要です。



暫定症例定義

2021年10月1日以降に診断された原因不明の肝炎を呈する入院例のうち、以下の①、②、③のいずれかを満たすもの：

- ①確定例 現時点ではなし。
- ②可能性例 アスパラギン酸トランスアミナーゼ(AST)又はアラニントランスアミナーゼ(ALT)が 500 IU/L を超える急性肝炎を呈した 16 歳以下の小児のうちA型～E型肝炎ウイルスの関与が否定されている者。
- ③疫学的関連例 ②の濃厚接触者である任意の年齢の急性肝炎を呈する者のうち、A型～E型肝炎ウイルスの関与が否定されている者。

★サル痘

サル痘についての情報です。オルソポックスウイルス属のサル痘ウイルスによる感染症で、中央アフリカから西アフリカにかけて流行している感染症です。サル痘と呼ばれていますが、本来の宿主はネズミ、リス等のげっ歯類です。この**げっ歯類をはじめ、サルやウサギなどウイルスを保有している動物との接触によりヒトに感染**すると言われています。ヒトからヒトに感染する場合もありますが、それほど感染力は強くはないといわれてきました。臨床症状は発熱、リンパ節腫脹と発疹であり、水痘や天然痘と同じ水疱形成を特徴とする発疹がみられます。治療は対症療法であり、天然痘ワクチンは予防効果がありますが、現在世界中で接種は行われていません。WHOによると、2022年5月13～21日の間に英国、スペイン、ポルトガル等ヨーロッパ10か国と米国、カナダからの報告数は疑い例を含めて120例となっています。一方、サル痘のヒト-ヒト感染はかなり濃密な接触によって感染が成立し得るとの指摘もあり、現時点では若年の男性間での性的な接触による感染事例が多いことが報告されています。今後の推移を見守っていきたいと思われます。



真実
サルより**げっ歯類**
なんだけどなあ...

げっ歯類



★インフルエンザ

インフルエンザについて、図は南半球にあるオーストラリアの過去1年間のインフルエンザウイルスの検出状況です。**A型のインフルエンザウイルスの検出数**が第16週(4月中旬)以降**急増**してきています。現在オーストラリアはインフルエンザが急増中であり、南半球の状況は次シーズンの日本を含めた北半球の国々にも大きく影響します。新型コロナウイルスの流行状況にもよりますが、2年近く殆ど見られなかったインフルエンザの流行が、近い将来に日本でも復活することは十分に考えておくべきです。

World Health Organization
Influenza Laboratory Surveillance Information
by the Global Influenza Surveillance and Response System (GISRS)

generated on 2022/05/22 22:50:41 UTC

Australia

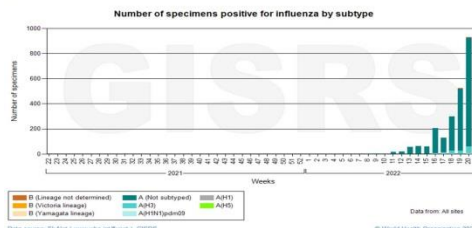


図. オーストラリアにおけるインフルエンザウイルスの検出状況 (WHOグラフ: <https://apps.who.int/flu/mart/Default?ReportNo=1>)